

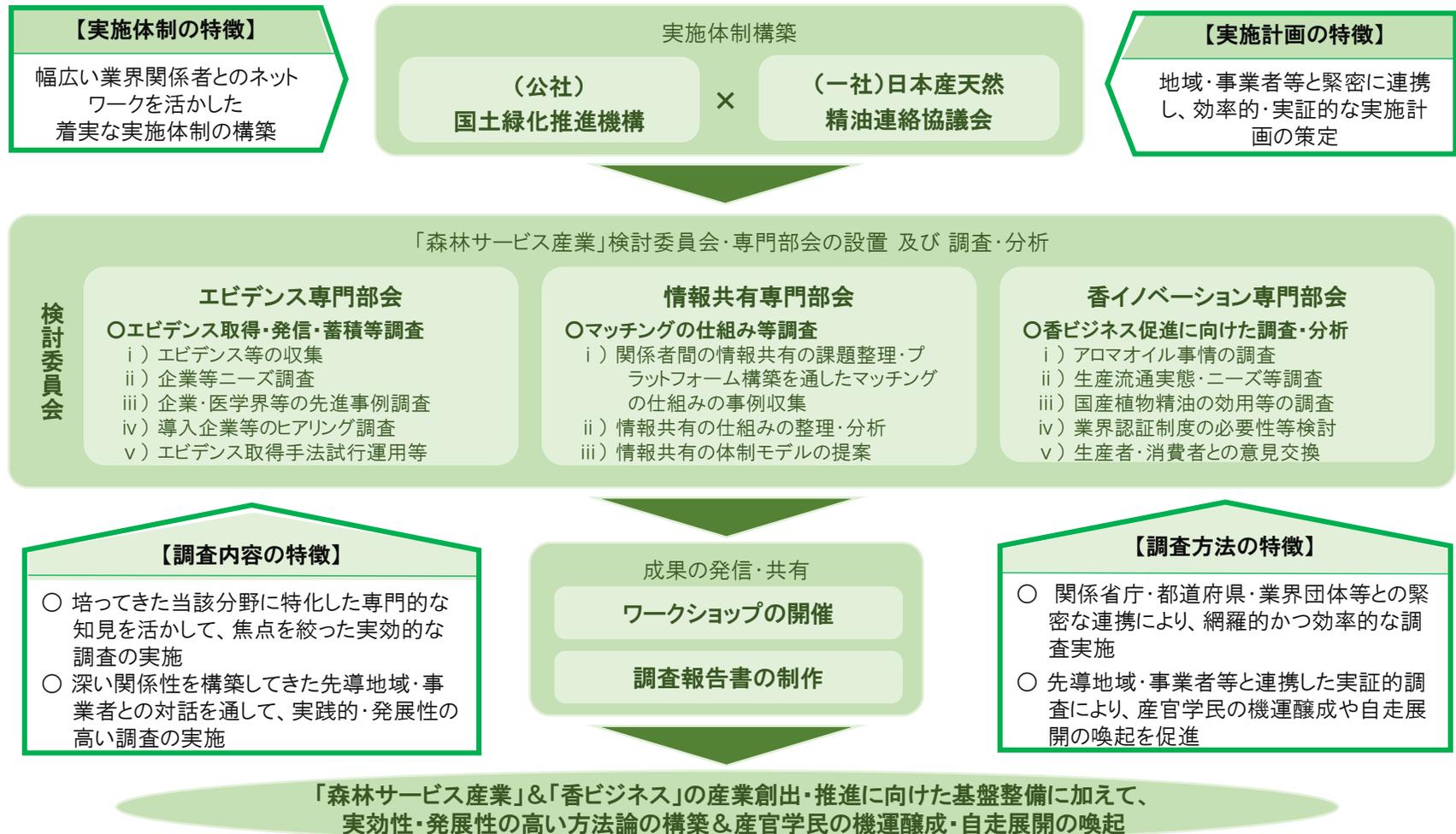
# 令和元年度 森林資源を活用した 新たな山村活性化に向けた調査検討事業 実施計画(案)

令和元年8月26日

公益社団法人国土緑化推進機構  
一般社団法人日本産天然精油連絡協議会

# 【1】調査検討事業の実施体制と提案のポイント

- ◆ 国土緑化推進機構と日本産天然精油連絡協議会が有する、幅広い関連業界や地域・事業者のネットワークを活かして、着実かつ効率的・実証的な調査業務を実施できる体制と実施計画を策定しました。
- ◆ さらに、本調査業務に関する専門的な知見を活かすとともに、関係省庁・都道府県・業界団体等との連携により、網羅的で効率的、かつ実践的・発展性が高い調査業務を実施します。さらには、産官学民の機運醸成や自走展開の喚起も促進します。



## 【2】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査検討事業

### ○「森林サービス産業」検討委員会

- ◆ 2018年度「森林サービス産業」検討委員会に参画した業界団体等の参画を得た「検討委員会」を設置するとともに、関連業界の動向等を踏まえて、実効性の高い展開方法を検討
- ◆ さらに、関連業界の多様な担い手の参画促進と、関連業界と連携・協働した「森林サービス産業」「香ビジネス」の促進策を整理

#### 実施方法

健康・教育・観光分野の業界団体や経済界・行政等の団体の参画を得た推進体制の構築

- 仕様書で定められた専門的知見を有し、2018年度「森林サービス産業」検討委員会に参画した業界団体・有識者等の委員を選出

⇒ 「森林サービス産業」や「香ビジネス」の検討内容の実効性を高めるとともに、関連業界と連携した効果的・発展的な促進策を検討できる体制を構築。

分野	委員候補
・森林・林業分野を通じた山村振興・地方創生に知見のある学識経験者	宮林 茂幸（東京農業大学 地域創成科学科 教授、美しい森林づくり全国推進会議 事務局長） 土屋 俊幸（東京農工大学大学院 農学研究院 教授 林政審議会 会長）
・民間企業及び経済・産業分野における山村振興・地方創生の動向等に知見のある関係者	池田 三知子（経団連自然保護協議会 事務局長） 鍋山 徹（（一財）日本経済研究所 専務理事 林業復活・地域創生を推進する国民会議 WG主査）
・民間企業等の健康経営に知見のある関係者	安藤 伸樹（全国健康保険協会（協会けんぽ） 理事長） 佐野 雅宏（健康保険組合連合会 副会長・専務理事 安田日本興亜健康保険組合・理事長）
・山村振興等にも知見のある観光及び教育分野関係者	大本 晋也（（独）国立青少年教育振興機構 理事 国立淡路青少年交流の家 所長） 久保 成人（（公社）日本観光振興協会 理事長） 志村 格（（一社）日本旅行業協会（JATA） 理事長）
・森林空間を活用して山村振興・地方創生に積極的に取り組む地方自治体等の関係者	熊谷 晃（長野県信州ブランド推進監営業本部 営業局長） 椎川 忍（（一財）地域活性化センター 理事長、（一社）移住・交流機構 代表理事） 武居 丈二（全国町村会 事務総長）
・森林・環境分野における企業 CSR・ESG 投資、環境金融等の関係者	松本 晃（㈱日本政策投資銀行 地域企画部 次長） 赤池 学（（一社）CSV開発機構 理事長）
・国産植物精油の業界関係者 等	津野田 勲（（一社）香りの健康ライブラリー 代表理事） 稲本 正（東京農業大学 客員教授）

#### 実施内容

健康・教育・観光分野や経済界・行政等の参画・連携・協働の促進策を検討

- 仕様書で定められた内容に加えて、健康分野・教育分野・観光分野の業界や経済界・地方自治体等の動向等を踏まえた「森林サービス産業」及び「香ビジネス」の展開方策についても検討

⇒ 関連業界の多様な担い手の参画促進と、関連業界と連携・協働した実効性のある「森林サービス産業」及び「香ビジネス」の促進策を整理。

開催時期	内容
第1回 (2019年8月26日)	① 委員長・副委員長の選出・決定 ② 平成30年度成果のふりかえり ③ 各専門部会の設置及び方向性等の検討 ④ 関連分野の動向の紹介
第2回 (2019年11月中旬)	① 各専門部会の進捗及び分析結果等の経過報告 ② 報告書の構成案の検討 ③ ワークショップ開催方針等の検討 ④ 「Forest Style ネットワーク(仮称)」の設立 ⑤ 関連分野の動向の紹介
第3回 (2020年1月上旬)	① 各専門部会のとりまとめの検討 ② 調査報告書(案)の検討と ③ ワークショップ実施内容についての検討 ④ 関連業界への訴求方法についての検討 ⑤ 「Forest Style ネットワーク(仮称)」の取組状況

## 【3-1】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

### ① エビデンス専門部会の設置

- ◆ 脳科学・エビデンス分析・メンタルヘルス関係の医療関係者に加えて、健康経営を担う医療保険者、国際的な研究動向等に詳しい学識者、受入側で森林活用等をコーディネートを担当するコーディネーターの参画を得て、汎用性と実用性の高い検討が行える体制を構築
- ◆ エビデンス取得・活用の現場を担当する測定機材開発者・アウトソーシング機関・地域関係者との意見交換で、実効性と波及性を担保

#### 実施方法 国際的で実用的な検討が行える専門家の委員選定

- 仕様書で定められた専門的知見を有する委員に加えて、学識経験者や健康経営の関係者、受入側のエキスパートの参画を得て専門部会を設置。
  - 特に、健康経営の観点から森林空間を活用するプログラム開発と、最先端の測定機材等を用いたエビデンス取得方法の検討にも実践的に携わっている者を選定
- ⇒ 国際的な研究動向を踏まえつつ、実用性のあるエビデンス取得手法を検討  
⇒ 汎用性と実用性を兼ね揃えた検討が行える体制を構築。

分野	委員候補(※各分野とも、何れか1~2名程度)
・医療関係者	春日 未歩子 (精神保健福祉士、公認心理師、(株)グリーンドック 取締役、保健農園ホテル フフ山梨 プログラムディレクター) 木村 理砂 (医師(内科医・精神科医)、医学博士、産業医、Momo統合医療研究所 所長) 瀬上 清貴 (医師/日本保健医療大学 特任教授、(NPO)森林セラピーソサイエティ 理事長)
・健康経営関係者	安藤 伸樹 (全国健康保険協会(協会けんぽ) 理事長)
・学識経験者	高山 範理 ((国研)森林整備・研究機構 森林総合研究所) 落合 博子 (国際自然・森林医学会 森林医学認定医、国立病院機構東京医療センター 形成外科医長) 田中 克俊 (北里大学大学院医療系研究科産業精神保健学 教授)
・有識者	浅原 武志 (株さとゆめ 取締役・長野支社長)

#### 実施内容 汎用性・波及効果等の高い手法開発

- 専門部会の開催に併せて、効果測定機材の開発事業者や保健指導アウトソーシング機関、ストレスチェック等をサポートするEPA等へのヒアリングも同時に実施
  - 「森林セラピー基地」全国ネットワーク会議等とも連携して、受入側の市町村・地域等とのワークショップを実施
- ⇒ 汎用性と事業展開の可能性が高いエビデンス取得手法を整理  
⇒ 受入側の市町村・地域等の実状に即した、実効性と波及効果の高いエビデンス取得モデル手法を整理

開催時期	内容
第1回 (2019年 9月下旬頃)	① 部会長・副部会長の選出・決定 ② エビデンス等の収集の方向性の検討 ③ 民間企業等ニーズ調査の方向性の検討 ④ 企業・医学界等の先進事例調査の方向性の検討 ⑤ 健康経営導入企業等ヒアリング調査の方向性の検討 ⑥ 現場でのエビデンス取得機材関係者のヒアリング ⑦ エビデンス取得のモデル手法の方向性の検討
第2回 (2019年 10月下旬頃)	① エビデンス等の収集結果の論点整理 ② 民間企業等ニーズ調査結果の論点整理 ③ 健康経営導入企業等ヒアリング調査結果の論点整理
第3回(現地 検討会) (2019年 11月下旬頃)	① 企業・医学界等の先進事例調査結果の論点整理 ② 心身の健康づくりのサポート機関等へのヒアリング ③ 試行運用参加者へのインタビュー・ワークショップ等 ④ エビデンス取得のモデル手法構築の論点整理
第4回	① 専門部会 報告書案の整理

### 【3-1】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 健康分野における森林空間の利活用を促進するためのエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に向けた調査・分析

##### i) 森林空間利用における効果・効用に関するエビデンス等の収集

- ◆ 企業の健康経営に関わる領域として、「心と身体健康づくり」「社員研修」「テレワーク」「福利厚生・CSR」等の4つの分野に対応し、それぞれ健康経営の観点からのエビデンスを集積
- ◆ 国際的な研究動向に兼新規のある(国研)森林整備・研究機構 森林総合研究所、国際森林・自然医学会等と連携した調査体制を整備

### 調査内容 森林空間を利活用した健康経営の4分野のエビデンス等を集積

- 企業等が健康経営の観点からエビデンス把握手法は、【右図】のように整理できるが、これまでの森林セラピー等の研究は、森林を舞台にした「現地調査型」が中心
- 森林セラピー等を通した一時的な心身の健康の回復という「現地調査型」のデータだけでは、健康経営視点のエビデンスには直結せず、企業・健康保険組合等への訴求は限定的。
- そこで、現地での森林体験を日常の生活習慣の改善等への気づき・動機づけとし、疾病予防・健康づくりを図り、ひいては保険費の抑制や休業・早期離職対策等に繋げるといった、健康経営視点のエビデンスを集積が重要。

⇒ 企業等の健康経営に関連した森林空間を利活用する取組は、【右表】の4分野が想定され、それぞれの健康経営の観点からのエビデンス(例)は、【右表】の要素が想定。

⇒ これまで森林セラピーの研究等で見られた「現地調査型」の研究に加えて、「追跡調査」、「横断観察研究」、「縦断観察研究」等により、企業の健康経営にとってのエビデンスの視点での先行研究を中心に、国内外の先行研究を収集。

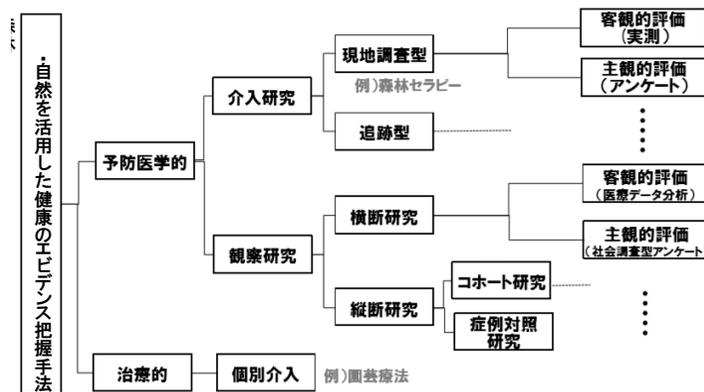
### 調査方法 国内・海外の研究動向を網羅して調査できる調査体制を確立

- 4分野を含めて広範な視野から、国際的な研究動向に見識がある「(国研)森林整備・研究機構 森林総合研究所」や「国際森林・自然医学会」等とも連携した調査体制を整備。

⇒ 国内の先行研究は「CiNii」「J-STAGE」等の国内論文データベース等、国際的な先行研究については、「MENDELEY」等の国際的な論文データベースの中から、特に追跡調査、横断観察研究、縦断観察研究等の健康経営視点のエビデンスに絞って特色ある先行研究やレビュー論文を整理。

⇒ IUFRO(国際森林研究機関連合)等による『公衆衛生のための森林に関する世界会議 (FHP2019)』(2019.5、ギリシャ)等の世界各国の最前線の研究動向等も整理。

【森林・自然を活用した健康のエビデンス把握手法】



【森林空間を利活用した健康経営の分野とエビデンス(例)】

健康経営の関連分野 [連携組織(例)]	健康経営視点のエビデンス (例)
① 心と身体健康づくり [健康指導支援機関 /EAP/産業医等]	生活習慣病・メンタルヘルス対策 保険費節減 休業・早期離職対策等
② 社員研修・社員旅行 [研修機関/旅行代理店等]	職場内コミュニケーション促進 従業員の創造性向上等
③ テレワーク・ワーケーション [テレワーク受入施設等]	生産性の向上 働き方改革の推進
④ 福利厚生・CSR活動 [福利厚生代行機関・ 協定締結先等]	企業イメージ向上 副次的な①～③の向上等

### 【3-1】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 健康分野における森林空間の利活用を促進するためのエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に向けた調査・分析

##### ii) 民間企業等のニーズ調査

- ◆ 平成18年度の企業ニーズとも比較分析が行える形で、「心と身体の健康づくり」「社員研修」「テレワーク」「福利厚生・CSR」の4分野の森林空間の利活用への関心、必要な効果・効用等のエビデンス、必要な支援策等に関するアンケート・ヒヤリング調査
- ◆ 森林活用への理解がある健康保険組合連合会東京連合会・経団連自然保護協議会等とも連携して効果的に調査を実施

### 調査内容 平成18年度調査と比較して4分野のニーズ調査を実施

○ 労働安全衛生法・高齢者医療確保法が改正され、従業員のメンタルヘルス対策や生活習慣病対策としての疾病予防を重視する制度が導入された平成18年度の国土施策総発調査(林野庁委託事業)で、大企業・健康保険組合を対象として、「心と身体の健康づくり」「社員研修」「保養活動」等の観点からの「森林セラピー」の活用に対するニーズ調査を実施。

⇒ 平成18年度の企業ニーズとも比較分析が行える形で、企業・健康保険組合を対象に、「心と身体の健康づくり」「社員研修」「テレワーク」「福利厚生・CSR」の4分野の森林空間の利活用への関心、既存活動と連動した実施が可能な施策、必要な効果・効用等のエビデンス、必要な支援策等に関するアンケート調査及びヒヤリング調査を実施。

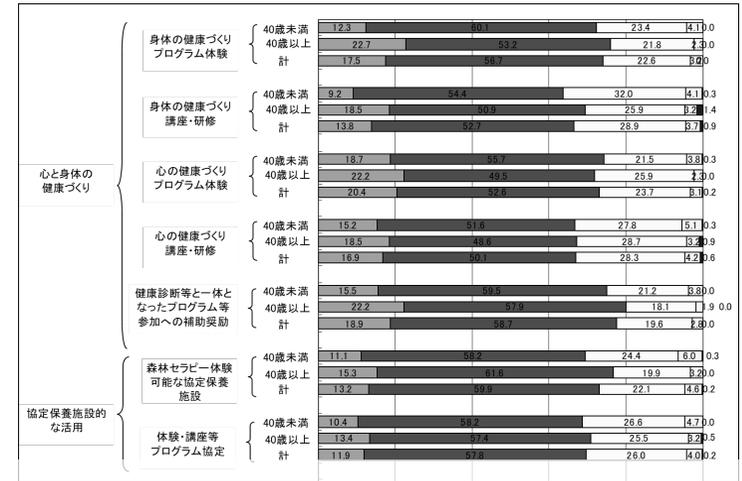
### 調査方法 森林空間の利活用への理解がある健保・企業等に調査

- 「健康保険組合連合会」では、これまで機関紙で「自然を活かした健康づくり」を特集
- 「同会東京連合会」では「森林セラピー」に関する講演会・現地見学会等を開催
- 2018年に日本経済団体連合会が行ったアンケート調査では、CSR/CSVとして「企業の森」を取り組んでいる企業は8割近く、また2019年に策定した「経団連生物多様性宣言」では、「森林サービス産業」に係る取組の実施が位置付け。

⇒ そこで本調査では、森林空間を利活用した健康経営への一定の理解があると考えられ、検討委員が所属する健康保険組合連合会東京連合会(589組合)会員及び当該組合を有する企業等を対象に、アンケート・ヒヤリング調査を実施。

- 先行して、「森林セラピー」先進地の長野県信濃町への視察体験を9月に実施する「健康と経営を考える会」(41社・団体)に参加している企業・健康保険組合にも、ヒヤリング調査を行う。

【企業等への森林セラピーのニーズ】  
(林野庁「平成18年度国土施策開発調査」)



【健保連会報「自然を活かした健康づくり」特集】  
(健康保険組合連合会「健康保険(2017年11月号)」)



【健保連東京連合会の健康教室】  
(健保連東京連合会会報(2017年11月号))



### 【3-1】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 健康分野における森林空間の利活用を促進するためのエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に向けた調査・分析

##### iii) 企業・医学界等の先進事例調査

- ◆ 行動変容に向けた気づき・動機づけに資する森林空間での体験活動とするために、必要な取組等を調査
- ◆ 関連省庁の疾病予防事業の実施者・産業医等にヒアリング調査。

### 調査内容 行動変容に向けた事前・実施・事後の取組等を整理

○「心と身体の健康づくり」の観点から森林空間における保養活動に求められる効果・効能は、【右上図】のように、事前段階・実施段階・事後段階における多様な健康への学びや気づき・動機付けの機会の提供を通して、「日常生活習慣の改善」等を図り、もって生活習慣病やメンタルヘルス不全の発症を未然に防ぎ、保険費の抑制や休業・退職リスクを抑制するといった要素である。

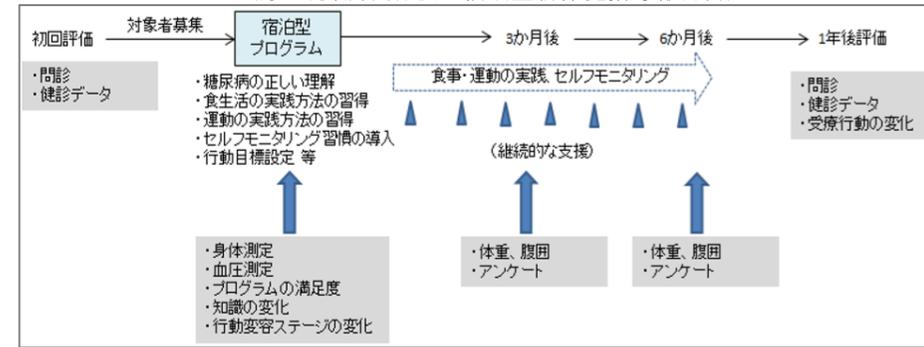
- ⇒ 本調査においては、i)の先行研究調査と同様に、追跡調査、横断観察研究、縦断観察研究等が行われている医学会の先行研究を収集
- ⇒ 特に、企業の従業員・健康保険組合の加入者の日常の健康指導等を担う産業医・健診機関、保健指導等のアウトソーシング機関・EAP等と緊密に連携して、日常生活習慣の改善に資する効果・効能等のエビデンスを集積・整理し、森林空間を活用したプログラムにおいて取り組むべく事前段階・実施段階・事後段階の取組を検討する参考情報を集積・整理。

### 調査方法 関係省庁の疾病予防の関連事業実施者・産業医等にヒアリング調査を実施

○ 厚生労働省「生活習慣病予防のための宿泊を伴う効果的な保健指導プログラムの開発に関する研究」の研究チーム、経済産業省「健康・医療情報を活用した行動変容促進事業」等に取り組んでいる学識者、保健指導等のアウトソーシング機関、産業医等を対象にしたヒアリング調査を行い、疾病予防・改善につながる関連分野の効果・効用に関するエビデンスを収集

### 【森林空間での保養活動と健康経営の関係性】

(厚生労働省研究班「宿泊型新保健指導報告書」)



### 【森林空間での保養活動とその前後で求められる取組例】

#### 事前段階



- 生活習慣病・メンタルヘルス不全予備群への参加の呼びかけ
- 健康無関心層やその家族等への森林内活動への参加の呼びかけ

#### 実施段階



- 森林内活動を通じた心身の休養・回復
- 健康データの測定や、運動・栄養・休養のバランス取れた生活習慣の体感を通じた気づき
- 健康増進法・マインドフルネス等の学び

#### 事後段階



- 定期的な森林における疾病予防(運動・栄養・休養)の習慣化
- 森林の恵みを活かした生活習慣改善
- 体験・学びを通じたストレス耐性の強化

### 【3-1】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 健康分野における森林空間の利活用を促進するためのエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に向けた調査・分析

##### iv) 健康経営導入企業等のヒアリング調査

- ◆ アンケート調査に回答した実績を有する企業のほか、多様なスキームを有する団体、都道府県等への照会により、心と身体の健康づくり「社員研修」「テレワーク」「福利厚生・CSR」の4分野毎の導入の経緯等についてヒアリング調査を実施

### 調査内容 4分野毎に、導入の経緯・実施施策・利用状況、健康づくりへの傾向、課題等を調査

- 既に森林空間を利活用した健康経営に取り入れた企業・健康保険組合等を対象に、「心と身体の健康づくり」「社員研修」「テレワーク」「福利厚生・CSR」の4分野毎に、導入の経緯、具体的な従業員・加入者向けの施策、施策の利用状況、施策の利用を通じた心身の健康づくり等の傾向、課題等についてヒアリング調査。

⇒ 特に、以下のような社内外の各種要員の影響についてもヒアリングを行い、幅広い企業・健康保険組合等への横展開を図るために必要となる要素を収集

- ・ 労働安全衛生法や高齢者医療確保法等の法改正
- ・ 労働力人口の減少による休業・早期離職リスク等抑制
- ・ 採用市場でのブランディング促進
- ・ 企業に対するCSV等の投資家からの要請
- ・ 保険費抑制による健康保険組合財政の健全化等
- ・ 導入・実施に際しての現地・仲介組織等が果たしてきた役割・機能
- ・ 現地でのプログラムの改善
- ・ 保健指導アウトソーシング機関・EAP等との連動による行動変容の促進への意向
- ・ 企業内の関係部署や健康保険組合が連携した4分野での取組の発展の可能性等

#### 【森林活用による健康経営を支援するスキームとその管理団体等】

##### 【心と身体の健康づくり】

「森林セラピー基地」  
(森林セラピーサイエティ)

「クアオルト健康ウォーキング」  
(日本クアオルト研究所)

「運動型健康増進施設」  
(日本スポーツ健康連盟)

「温泉利用型健康増進施設・  
温泉利用プログラム型健康増進施設」  
(日本健康開発財団)

「ヘルスツーリズム認証」  
(日本ヘルスツーリズム振興機構)

##### 【社員研修・テレワーク】

「社員研修全般」  
(日本能率協会)

##### 【テレワーク】

「ふるさとテレワーク」  
(総務省)

##### 【福利厚生・CSR】

日本旅行業協会

経団連自然保護協議会

### 調査方法 アンケート調査協力企業に加え、関連団体・都道府県を経由して対象企業を抽出して調査

- 森林空間を活用した健康経営に係る取組を支援する枠組みは、「森林セラピー基地」や「クアオルト健康ウォーキングアワード受賞地」等がみられる。

⇒ 以下のアプローチから、導入企業等の事例を収集して、ヒアリングを行う。

- ① ii)の調査で既に森林空間を利活用した健康経営を取り組んでいる企業等
- ② 【右図】の「森林等を活用した健康経営を支援するスキーム」を所管する団体等のうち協力可能な団体から照会
- ③ 都道府県を経由して、森林空間を利活用した健康経営の導入企業等を抽出

### 【3-1】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 健康分野における森林空間の利活用を促進するためのエビデンスの取得、発信・共有、蓄積に向けた調査・分析

##### v) 簡易なエビデンス取得のモデル手法の試行運用・発信方法等の提案

- ◆ 医療・保健関係者が参画し、質の高いプログラムを開発している主体等と連携しつつ、汎用性が高い測定機器・ソフト等を用いて、志向性の異なる4タイプの実施主体のツアー等と連携して、エビデンス取得のモデル手法の試行運用を実施・評価・発信

### 調査内容 汎用性の高い自律神経測定機器等を活用した試行運用

- 近年、自律神経の測定機材等の開発が進展し、ウェアラブル機材の開発も進展。
- 単なる森林内での滞在や散策による効果・効用を測定するだけでなく、メンタルヘルス対策としてマインドフルネス等を意図したプログラム開発や、生活習慣病の予防としての「宿泊型新保健指導プログラム」に対応した運動プログラム、森林内活動後のフォローアップによる行動変容の促進等を行うプログラム開発して、効果・効用を調査する取組も台頭。
- さらに、簡易な測定機材を使用し、それらの測定結果をビックデータとして集積して分析することで、プログラムの上質化や、気づき・動機付け・行動変容等に向けた効果的な介入に向けたアルゴリズム開発の検討等も台頭。

⇒ i)～iv)の調査・検討を踏まえつつ、健康経営への貢献を強く意識して、医療・保健関係者が参画して質の高いプログラムを開発している主体等と連携して、汎用性が高い測定機器・ソフト等を用いたエビデンス取得のモデル手法の試行運用を実施

### 調査方法 志向性の異なる4タイプのツアー等と連携した試行運用

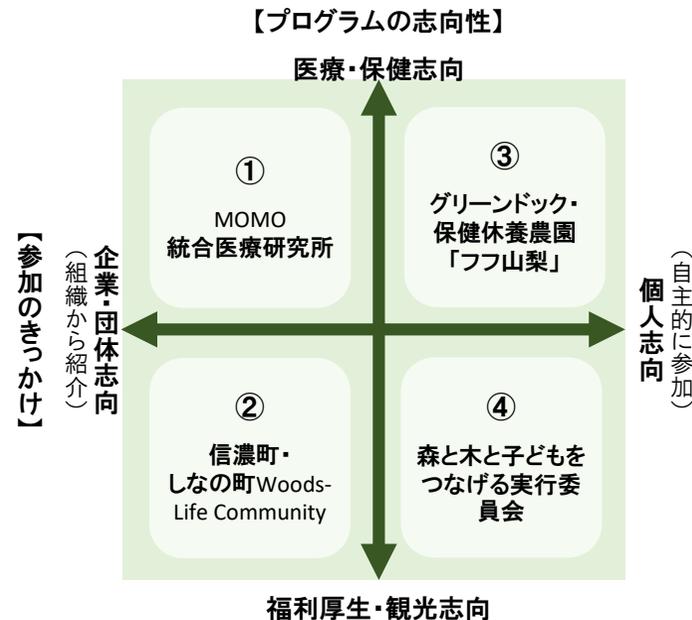
- 企業の健康経営の多様なシーンで導入する可能性を検討できるよう、プログラムの志向性が「医療・保健志向」と「福利厚生・観光志向」、参加のきっかけの志向性が「企業志向(組織からの紹介・斡旋)」と「個人志向(自主的な参加)」と異なる4つのタイプの実施主体と連携。

- ① MOMO統合医療研究所  
(慶応大・北里大・地域医療機関と連携した「森林セラピー×マインドフルネス」を実施)
- ② 長野県信濃町「しなの町Woods-LifeCommunity」  
(「健康と経営を考える会」等と連携した「森林セラピー」体験のモニターツアーを実施)
- ③ 株グリーンドック・保健休養ホテル「フフ山梨」  
(メンタルヘルス不全予備群向けの「森林セラピー」プログラムを実施予定)
- ④ 森と木と子どもをつなげる実行委員会  
(森林医学専門医が参画した親子の「森林セラピー」体験を実施予定)

【汎用性が高い測定機器・ソフト(イメージ)】



【「エビデンス取得モデル手法」試行運用 連携先(候補)】



## 【3-2】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

### ① 情報共有専門部会の設置

- ◆ ICT関係・企業経営コンサルタント・SDGs関係有識者・金融機関に加えて、都市部のシーズを把握する観光業界関係・農山村地域のシーズを把握する地方自治体等関係者の参画を得ることで、プラットフォームを活用した効果的なマッチングの仕組みを検討
- ◆ プラットフォームの先進事例やICT活用事業者等のヒヤリングにより、長野県におけるケーススタディで汎用性・事業性を担保

#### 実施方法 都市と農山村のニーズ・シーズや海外の理論等に詳しい委員を選定

- 仕様書で定められた専門的知見を有する委員に加えて、「森林サービス産業」の参加者層に近い都市部の消費者等のニーズを把握する観光業界関係者と、受入側となる地方自治体の動向を把握している全国団体の関係者、海外を含めた学術的な知見を有する委員等の参加

⇒ より都市部の消費者側のニーズと、受入側のシーズに合致して、効果的なマッチングの仕組みを議論できる体制を構築

分野	委員候補(※何れか1~2名)
・企業経営コンサルタント	鍋山 徹 ((一財)日本経済研究所 専務理事)
・SDGs 関係有識者	小寺 徹 ((一社)CSV開発機構 代表理事)
・金融機関 関係者等	松本 晃 ((株)日本政策投資銀行 地域企画部 次長)
・観光業界関係者	杉野 正弘((公社)日本観光振興協会 事業推進本部観光地域づくり・人材育成部門担当地域ブランド創造部長)
・地方自治体等関係者	熊谷 晃 (長野県営業局長) 吉弘 拓生 ((一財)地域活性化センター クリエイティブ推進室長) 小川 幸生 (全国町村会 経済農林部長)
・観光業界関係者	田中 伸彦 (東海大学 教授、日本森林学会 代議員、 日本レジャー・レクリエーション学会 常任理事) 平野 悠一郎 ((国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所 主任研究員、筑波大学 連携教員)

#### 実施内容 機運醸成と実用性を兼ね揃えた検討

- 専門部会の開催に併せて、全国レベルの動向・都道府県レベルの動向を把握するとともに、多様な公民連携・民民連携の事例等を収集することで、近年の最前線の動向を踏まえた新事業開発に向けた方法論を網羅的に整理
- 長野県をケーススタディとして、行政機構の多様な部署及び関係団体等が分野横断的に連携して、市町村等を支援する体制のあり方を具体的かつ先導的に検討

⇒ より機運醸成と実用性を兼ね揃えて、自走展開を促進する可能性が高い方策を整理

開催時期	内容
第1回 (2019年 9月下旬)	① 部会長・副部会長の選出・決定 ② 関係省庁・団体等による全国/都道府県レベルの推進体制・支援施策等/モデル地域創出方法の整理 ③ 都道府県による支援施策・先進事例調査の検討
第2回 (2019年 10月下旬)	① 都道府県調査結果の整理 ② 独自で構築すべく支援施策等と、他分野の施策等を採用すべき要素の整理 ③ 都道府県のモデル的な支援体制(長野県)の検討 ④ 全国/都道府県レベルの推進体制・支援施策、ポータルサイトのモデルの論点整理
第3回 (2019年 11月下旬)	① 地域で中核組織が担うべく機能の論点整理 ② 公民連携・民民連携による新事業開発の論点整理 ③ モデル地域選定・支援策のあり方の論点整理
第4回	① 専門部会の報告書案の整理

### 【3-2】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ②「森林サービス産業」のマッチング・情報共有の仕組み構築に向けた調査・分析

##### i) 全国/都道府県レベルの推進体制・支援施策等のあり方の整理・提案

- ◆ 「森林サービス産業」に関連する関係省庁・団体・都道府県等が取り組む「全国・都道府県レベル」の推進体制・支援施策の事例収集・課題整理を踏まえて、独自で構築すべき要素と他分野を演奏すべき要素を整理して、全国レベル/都道府県レベルの「森林サービス産業」推進体制・支援施策（プラットフォームを含む）のモデルや、構築すべくポータルサイトのあり方を整理・提案。

### 調査内容

#### 関係省庁・団体の施策等を参考に、「全国・都道府県レベル」のプラットフォーム等のあり方を整理・分析

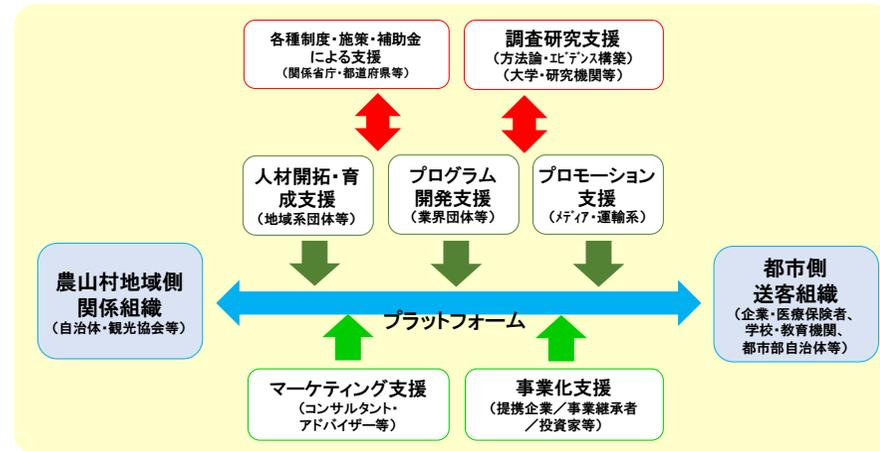
- 「森林サービス産業」検討委員会では、【右図】の通り、全国レベルでは「人材開拓・育成」「プログラム開発」「プロモーション」「マーケティング」「事業化」「調査研究等を支援する専門事業者との紹介・斡旋に向けたプラットフォームの必要性を提案したところ。また、都道府県レベルのプラットフォームの構築の必要性を提案してきたところ。
- これらの機能のうち、健康・教育・観光等の他分野で構築されている推進体制・支援施策等で賄える要素と、「森林サービス産業」として独自で構築すべき要素を整理
- それを踏まえて、全国レベル/都道府県レベルの「森林サービス産業」の推進体制と、支援施策のあり方について整理。特に、上記機能を発揮するための「グッドプラクティス」を収集する仕組み、効果的・機能的なマッチングを促進する仕組み等を整理
- また、ポータルサイトに求められる機能・要素も整理（右下表を参照）
- 都道府県レベルについては、分野横断的な推進体制・支援施策等のあり方を検討する為、具体的に委員が所属する長野県をケーススタディとして検討（必要に応じて、民間事業者等との意見交換を設定）

### 調査方法

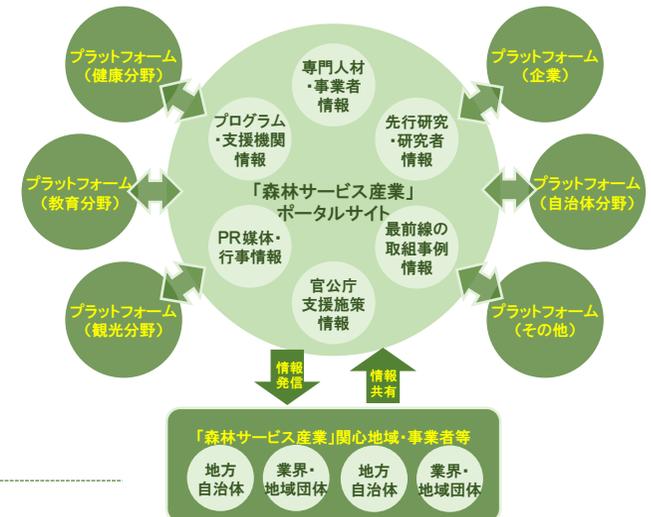
#### 関係省庁・団体・都道府県等に情報を網羅的に収集

- 「森林サービス産業」検討委員会に参画する業界団体や、オブザーバー参加する関係省庁、都道府県へのヒアリングを通して、全国・都道府県で設置されているプラットフォーム等の推進体制と支援施策の情報を収集
- 長野県等の協力を得て、営業部署、林務部署とともに関係部署（観光部署、健康部署、教育委員会、子ども家庭部署等を想定）とも意見交換して、実証的に検討

【全国レベルのプラットフォームの枠組み(イメージ)】



【「森林サービス産業」のポータルサイト(イメージ)】



### 【3-2】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ②「森林サービス産業」のマッチング・情報共有の仕組み構築に向けた調査・分析

##### ii) モデル地域創出方法のあり方の整理・提案

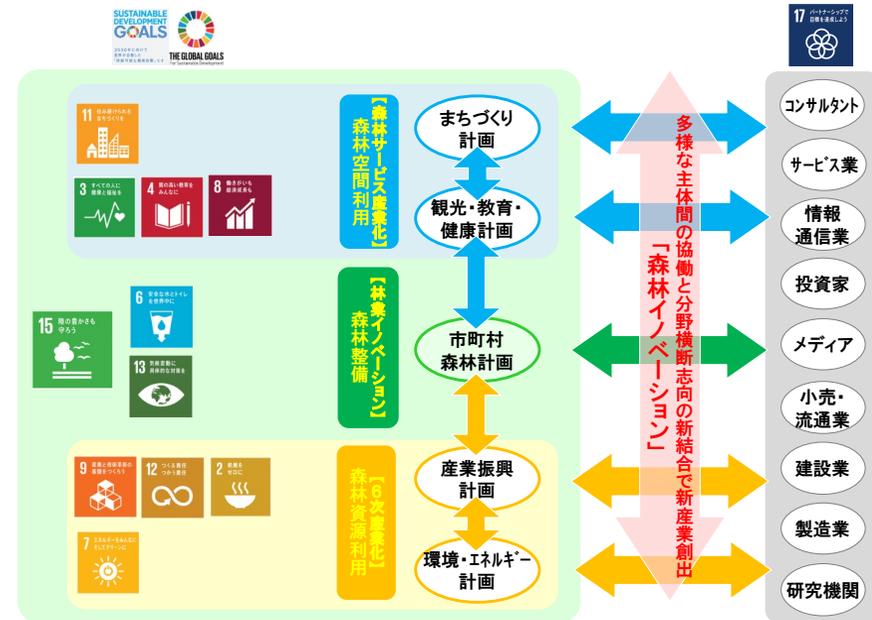
◆ 「森林サービス産業」に関連する関係省庁・団体等が取り組む「モデル地域」の創出手法等の事例収集・課題整理を踏まえて、「モデル地域」の中核組織が担うべき機能のあり方を整理し、効果的・発展的なモデル地域の選定・支援策のあり方を整理・提案。

### 調査内容

#### 関係省庁・団体の施策等を参考に、「モデル地域」の選定・支援等のあり方を整理・分析

- 「森林サービス産業」に関する中央省庁・団体等の各種施策における「モデル地域」の創出方法等(モデル地域の選定・支援方法等)の事例収集・課題整理を行う。
- その上で、「モデル地域」の中核組織が担うべき以下の機能のあり方を整理する。
  - ① 分野横断的な計画策定のあり方の整理【右図参照】  
(地方創生・SDGs等の総合計画での位置付け、森林分野と他分野の計画連動等)
  - ② 推進体制のあり方の整理  
(新たな協議会創設、既存協議会が実施、DMO・3セク等が実施、民間が主導等)
  - ③ 中核的人材・組織の担うべき機能のあり方の整理  
(企画・構想段階、導入・試行段階、実行段階等のステップに合わせて整理)
  - ④ 公民連携・民民連携によるべき新事業創出のあり方の整理  
(イノベーション促進、(b) 公有林等を活用した公民連携による新事業創出のあり方)
- それらを踏まえて、「モデル地域」を効果的に抽出・選定するとともに、発展的な展開を促進する支援策のあり方を整理する。
  - ① 「森林サービス産業」推進自治体(仮称)」の登録等の仕組みづくり  
(アドバイザー派遣、サポート団体とのマッチング、モデル助成等を段階的に実施)
  - ② 「森林サービス産業」モデル推進地域(仮称)」への助成プログラムのあり方の整理  
(地域ブランディング、インキュベーション機能創出、新規ビジネスモデル創出等)
  - ③ 外部の専門的人材・事業者等の登録・マッチング等の仕組みづくり  
(専門的知見を有する「アドバイザー」、サポートプログラムを有する「パートナー」等)
  - ④ 中核的人材の開拓・育成の仕組みづくり  
(地域おこし協力隊・地域林政アドバイザー等を活用した事業系・統括系人材育成等)

#### 【SDGsに対応した「森林イノベーション」を促進する計画策定(イメージ)】



### 調査方法

#### 関係省庁・団体・都道府県等の情報を網羅的に収集

- 「森林サービス産業」検討委員会に参画する業界団体や、オブザーバー参加する関係省庁、都道府県へのヒアリングを通して、全国・都道府県で設置されているプラットフォーム等の推進体制と支援施策の情報を収集

### 【3-3】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ① 香イノベーション専門部会

- ◆ 国産植物精油に関する生産者、医療、福祉、化粧品関係者等の参画を得て、汎用性と実用性の高い検討が行える体制を構築
- ◆ 国産植物精油の実態を踏まえた展開方向、品質確保の方針、ネットワーク化に向けた体制整備等への提言を行う

#### 実施方法

専門的な知見を有し、実用的な検討が行える専門家を選定

- 国産植物精油の各工程(生産～製造～流通販売～消費～普及啓蒙)に関する専門家を選定

⇒ 汎用性と実現性を兼ね揃えた検討が行える体制を構築

#### 実施内容

植物精油の現状を把握し、品質確保の方向性や生産者・消費者等を繋ぐ体制整備を検討

- 国内外におけるアロマオイル事情の調査・整理
- 我が国におけるアロマオイルの生産流通実態等の調査・整理
- 国産植物精油の効用や機能性、活用方法の調査・整理
- 各地域の生産者が一定の品質を確保するための、業界認証制度やトレーサビリティ等の必要性及び導入手法の検討
- 生産者と消費者が集う意見交換会の開催

⇒ 香ビジネスの現状を把握し、課題を洗い出し

⇒ 実現性を踏まえながら、新しい香ビジネスの方向性を検討

分野	委員候補
・医療関係者 (病気予防関係)	本間 請子(医師。元日本アロマセラピー学会会長)
・福祉関係者 (高齢者福祉関係)	佐野 美恵子(訪問健美理美容・すぎなみ代表)
・化粧品製造業 (評論関係)	錦織 なつみ(美容エッセイスト)
・アロマセラピー業／国産植物精油の業界関係者	稲本 正(飛騨高山の国産精油メーカー「正プラス株式会社」代表。オークヴィレッジ会長)
・商社	田中 智子(地方都市再開発アドバイザー)
・出版業	角田 勲(有限会社フレグランスジャーナル社創業。香りの健康ライブラリー代表)
・ICT関係者	藤田 修二(ソニー株式会社 AROMASITC開発者)
・国産植物精油生産者	碓井 修(沖縄の国産精油メカ-日本月桃株式会社代表取締役)

開催時期	内容
第1回 (2019年8月)	① 部会長の選出・決定 ② 上記の各項目について、実施内容の方向性や具体的な調査内容・方法を検討
第2回 (2019年10月)	① 調査の進捗状況の確認 ② 調査結果の論点整理に向けた方向性の検討 ③ 専門部会報告書構成案の検討
シンポジウム等の開催 (2019年12月)	① 生産者と消費者、研究者等による意見交換等
第3回 (2019年12月)	① 調査結果の論点整理 ② 専門部会報告書案の整理

### 【3-3】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 香ビジネスの促進に向けた調査・分析

##### i) 国内外におけるアロマオイル事情(品質含む)の調査・整理

#### ◆ 国内外の植物精油の生産、流通、歴史文化等について、文献や統計資料等により調査・整理

##### 調査内容 国内外の植物精油の生産等の実態等の把握

- 海外主要国における精油の生産量やコスト、歴史的な背景等
- 国内における海外産精油の消費・流通の実態、歴史的な背景等
- 国内外の精油生産者の労働条件や労働環境等
- 国産精油と海外産精油の品質
- 国産天然精油の使用分野の実態

⇒ 文献等の調査により、これまで不明瞭であった国内外の植物精油に関する基礎的な情報を整理

##### 調査方法 研究論文、統計資料等を活用した調査

- 研究論文、専門誌等の文献による調査
- 統計資料による調査



専門誌等の活用

##### ii) 我が国における国産植物精油の生産流通実態及びニーズ、嗜好等の調査・整理

#### ◆ 国内のアロマセラピー関係者における植物精油の使用状況(国内産・海外産)について、国内アロマセラピー団体等に対して調査・整理

##### 調査内容 国産植物精油の使用状況や嗜好性を調査

- 主要なアロマセラピー団体の現状(団体数、会員数、活動内容等)の把握
- アロマセラピー関係者を対象にした使用状況や香りの嗜好性の把握

⇒ 国産植物精油のマーケットはまだ小さいため、医療現場や家庭、サロン、企業(健康経営)等の場所で、国産植物精油がユーザーに受け入れられるかどうかは未知数。香りの活用法や嗜好性等について調査し、香ビジネスの新たな可能性を探る。

##### 調査方法 アロマセラピー団体等へのアンケート調査等

- アロマセラピー団体やサロン等へのアンケート調査
- 有識者へのヒアリング
- 統計資料による調査等

### 【3-3】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 香ビジネスの促進に向けた調査・分析

##### iii) 国産植物精油の効用や機能性、活用方法の調査・整理

◆ 医学的効用、アロマセラピーとしての活用、化粧品・食品等への活用等の国産植物精油の効用や機能性に関する情報を調査・整理

#### 調査内容

国産植物精油の医学的効用、化粧品等への  
利用方法

- 国産植物精油の予防医学を含めた医学的効用についてのエビデンス
- 国産植物精油の効果を活用した化粧品・食品等への利用方法

#### 調査方法

文献等の調査、関係者へのアンケート調査、  
有識者等へのヒアリング等

- 研究論文、専門誌等の調査
- 国産精油を使用しているアロマセラピスト等のアロマセラピー関係者へのアンケート調査
- 研究者やアロマセラピー関係者へのヒアリング等

⇒ 国産植物精油に関するエビデンスと使い方をまとめることで、今後の香ビジネス業界において利用可能な方法を検討するための基礎的な情報を整理



写真提供: yulica

**クロモジ精油**の  
セルフマッサージで、  
ぐっすり快眠!

リナロール成分が睡眠を促す



写真提供: yulica

**スギ精油**の  
フェイシャルクリームを塗ったら、  
花粉症の症状が軽減!

ヒスタミン作用



写真提供: yulica

**アスナロ精油**を  
掃除で使ったら、  
害虫が出て来なくなった!

ツヨブセン成分が防虫に良い

### 【3-3】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 香ビジネスの促進に向けた調査・分析

##### iv) 各地域の生産者が一定の品質を確保するための、業界認証制度やトレーサビリティ等の必要性及び導入手法の検討

- ◆ 業界認証制度やトレーサビリティ等の必要性等を検討するために、生産現場において原料植物の採取（栽培）や精油の生産（抽出）等の実態を調査し、課題を把握

#### 調査内容 原料調達や精油製造に関する実態等を調査

- 原料調達方法、精油製造方法
- 精油の管理体制
- 製造コスト
- 原料調達、精油製造等における諸課題
- 森林由来の新たな原料による国産植物精油の可能性 等

#### 調査方法 現地調査、生産者へのアンケート調査等

- 現地調査  
国内で森林由来の植物精油を生産している担当者へのヒアリング等
- 生産者へのアンケート調査
- 大学教授等の学識経験者、専門家へのヒアリング

⇒ 生産現場の実態を把握することで、実現性を踏まえながら、一定の品質を確保するための業界認証制度やトレーサビリティ等の必要性等を検討



現地調査のイメージ



精油の蒸留器



国産植物精油(エッセンシャルオイル)の製品

### 【3-3】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

#### ② 香ビジネスの促進に向けた調査・分析

##### v) 生産者側と消費者側が集う意見交換会の開催

- ◆ 国産精油生産者と消費者、研究者等が集い、国産植物精油による香ビジネスの進展に向けた意見交換の場を設け、気運を醸成

#### 実施内容 生産者、消費者、研究者等が集う意見交換会の開催

- 国内における海外産精油の消費・流通の実態や森林由来の国産植物精油の現状、機能性、可能性等をテーマに開催

#### 実施方法 シンポジウムや意見交換会等を開催

- シンポジウム、パネルディスカッション、意見交換会の開催  
会 場： 都内  
対 象： 国産植物精油の生産者、消費者、研究者、流通販売者等  
内 容： 国産精油に関する講演、パネルディスカッション、意見交換会
- 上記会場における来場者アンケートの実施

⇒国産植物精油に関する生産者、製造業者、流通販売業者、研究者等が連携を持つことで、共通課題の洗い出しやモチベーションの維持、ネットワークを強化。  
⇒生産者、製造業者、流通販売業者、研究者、消費者の相互交流により、国産植物精油業界が発展するための場を設け、気運を醸成。

(一社)日本産天然精油連絡協議会第1回シンポジウムの様子。  
全国から生産者や流通販売業者、研究者が集った。



国産植物精油を使ったアロマハンドトリートメント体験



## 【4】森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査・分析

- 調査・分析を踏まえたワークショップの実施
- 森林資源を活用した新たな山村活性化に向けた調査報告書の作成

- ◆ 業界団体・経済界・自治体関係団体と連携した告知を通して、幅広く関係者の参集を得て、検討委員会・専門部会の検討成果の訴求とともに、実践事例紹介・ワークショップ・ポスターセッションを通じたマッチング支等により、機運醸成と自走展開の喚起を促進
- ◆ 手引書としての機能を有する「調査報告書」の作成

### 実施内容

検討成果を広く発信し、マッチング&自走展開の喚起を図るワークショップ開催  
手引書機能を有する報告書作成

- ワークショップは、検討委員会及び専門部会等の検討成果を広く共有するとともに、参加者間のマッチング促進のため、**基調講演・概要報告・事例報告**とともに、「ポスターセッション」「ワークショップ」を開催
- 報告書は、**企業・健康保険組合等の誘致**を考える自治体関係者、サービスの一部として森林空間の利活用を検討する**保健指導等のアウトソーシング機関・EAP等**が使用できるように、制度的な枠組み、サービスの内容、支援施策等も所収した「手引き」的な報告書を作成

### 実施方法

業界団体・経済界・自治体関係団体との連携した対象層の参加促進・報告書頒布

- ワークショップは、健康経営の主たる利用側である企業・医療保険者等の参画を促進するために全国健康保険協会、健康保険組合連合会、経団連自然保護協議会、日本商工会議所等の協力を得るとともに、受入側の農山村地域の自治体・事業者の参加促進に向けて地域活性化センター、全国町村会等の協力を得て広く参加者を募集。
- また、「森林セラピー基地」全国ネットワーク会議の研修会や、「移住・交流フェア」をはじめとして、当該時期に開催される全国の自治体間対象の行事等と連続して開催し、全国の自治体等の参加を促進。
- 報告書は、上記ターゲット目線に合わせて制作し、業界団体等を経由して対象層に広く頒布

### 《ワークショップ開催イメージ》

【開催日】2020年1月下旬(予定)  
【開催地】東京都千代田区内(予定)  
【定員】200名  
【内容】以下の通り

1. 開会挨拶
2. 基調講演(森林と健康に詳しい著名人・有識者)
3. 概要報告
  - ① エビデンス専門部会報告
  - ② 情報共有専門部会報告
  - ③ 香イノベーション専門部会報告
4. 事例報告
  - ① 森林空間を活用した健康経営支援事例(行政)
  - ② 森林空間を活用した健康経営支援事例(事業者)
  - ③ 森林空間を活用した健康経営導入事例(企業)
  - ④ 森林空間を活用した健康経営導入事例(健保組合)
5. ワークショップ  
(人材育成、プログラム開発、事業モデル開発、マーケティング、プロモーション、調査研究、資金調達等の課題毎)
6. ポスターセッション
  - ① 「心と身体への健康づくり」受入地域・支援事業者等
  - ② 「社員研修」受入地域・支援事業者
  - ③ 「ふるさとテレワーク」受入地域・支援事業者
  - ④ 「福利厚生・CSR」受入地域・支援事業者
  - ⑤ 健康・教育・観光・香分野のプラットフォーム
  - ⑥ その他



## [5] 実施計画

事業内容		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会開催	①検討委員会	第1回			第2回		第3回		
	②エビデンス専門部会		第1回	第2回	第3回	第4回			
	③情報共有専門部会		第1回	第2回	第3回	第4回			
	④香イノベーション専門部会	第1回		第2回		第3回			
健康分野調査	①- i)エビデンス収集		国内・国際会議の先行研究整理						
	①- ii)民間企業ニーズ調査		アンケート、ヒアリング、分析						
	①- iii)企業等先進事例調査			ヒアリング、分析					
	①- iv)健康経営企業ヒアリング				ヒアリング、分析				
	①- v)モデル試行運用		エビデンスモデルの検討、試行運用、課題検討						
森林産業調査	②- i)課題整理、事例収集		全国、地域プラットフォーム調査						
	②- ii)仕組みの整理・分析			マッチング 仕組み整理、長野県で実証					
	②- iii)体制モデルの提案				仕組み、モデルのあり方、検討				
香ビジネス調査	③- i)アロマオイル事情の調査		文献、ヒアリング調査、調査分析、課題改善、まとめ						
	③- ii)生産流通実態等の調査		文献、ヒアリング調査、調査分析、課題改善、まとめ						
	③- iii)効用、機能性等の調査		文献、ヒアリング調査、調査分析、課題改善、まとめ						
	③- iv)認証制度等の必要性の検討		現地調査計3回、アンケート		調査分析、課題改善、まとめ				
	③- v)意見交換会の開催				シンポジウム開催				
調査・分析を踏まえたワークショップの実施						準備、ワークショップの開催			

調査報告書の作成・提出